

前島密（写真）



前島密は、新潟県上越市大字下池辺の農家に生まれ、十二歳で単身江戸に遊学し、苦しい生活の中、医学、兵学、数学、航海術、語学など様々な学問を実地に体験して習得しました。その能力を認められ明治政府に出仕した密は、郵政事業の基礎を確立し、その発展に多大な功績を残したため「郵便の父」と呼ばれています。

しかし、前島の業績はそれにとどまらず、駅制改革、陸・海運の振興、鉄道の計画、新聞の育成など近代国家の建設に必要な基盤の整備に取り組み、また、教育や社会福祉の先駆者としての役割も果しました。

生誕地に建てられた生誕記念碑の碑文には「日本文明の一代恩人がここで生まれた」とあり、前島密の業績や人柄が簡潔に述べられた後「忠実で、果敢で、廉潔で、趣味は博かった。」と記されています。

向かって右が維新期の写真で、左は駅通頭時代のものです。

（表紙解説）

東海道五拾三次之内 三島 朝霧

正面に供を連れ箱根越の山駕籠のりかけうまに乗る人、合羽に身を包み乗懸馬のりかけうまに乗る人がはっきりと描かれ、背景に朝霧が一面に立ち込めた三島神社の大鳥居や宿場の様子がシルエットとして描かれている。

旅人は、早朝のため皆眠いのか、頭を垂れ笠で顔を隠している。